㊺　ニンニクを育てよう

気候に合わせ品種選び

ニンニクは，ユリ科の野菜。起源は古く中央アジアが原産で紀元前４，５００年頃，古代エジプトで栽培され，中国を経由し日本には８世紀頃に伝わったとされます。冷涼な気候を好み，夏は休眠に入ります。生育適温は１２～２３度。保水性の良い肥沃な土壌で生育が良くなります。殺菌作用が高く，ウイルスや細菌から体を守る機能性が評価されています。

１．品種

暖地向きと寒冷地向きの品種があり，栽培する地域の気候にあわないと肥大しないことがあるので品種選びが必要です。暖地向きでは，平戸，島ニンニク，遠州早生など（寒冷地向きでは福地ホワイト，富良野など，外国産として中国産ニンニクなど）があります。

２．定植の準備

種球用として販売されているものを準備します。あらかじめ種球を手で分割して１片にしておきます。小さいものや腐敗しているものを取り除きます。

３．畑の準備

定植の２週間前に１平方㍍当たり苦土石灰１００㌘を散布し，耕うんします。その１週間後，１平方㍍当たり堆肥２㌔，化成肥料（成分１５・１５・１５）１００㌘を散布し，耕うんします。雑草や病害対策にマルチを利用します。

４．定植

定植は９月下旬から１０月に行います。畝幅１２０㌢（床幅８０㌢，通路幅４０㌢）高さ５㌢の畝を作り，条間１５㌢，株間１５㌢の５列に定植します。とがった方を上にして指で５，６㌢の深さに押し込みます。

５．芽かき・花膏（からい）つみ

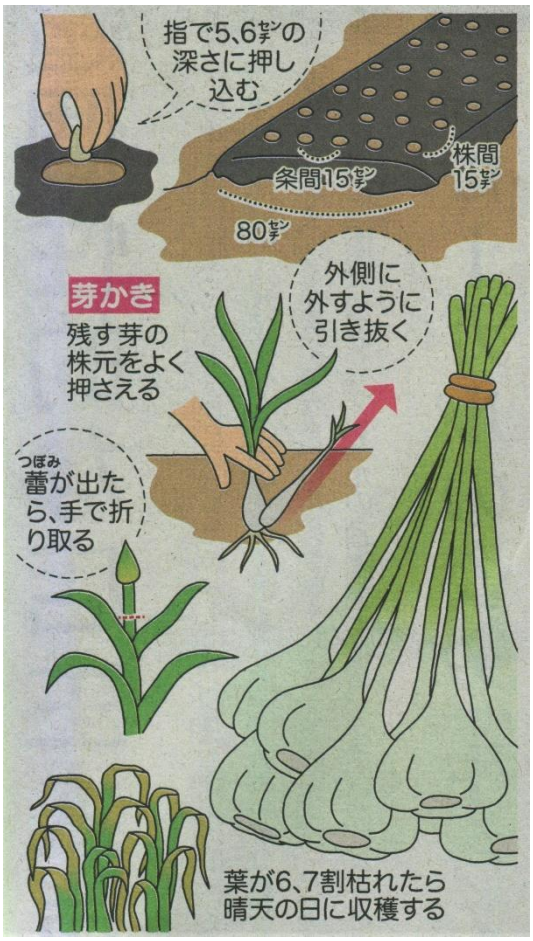
芽が２芽以上出たものは，生育の良い芽を１芽残して芽かきを行います。抜き取る際は，残す芽の株元をよく押さえて外側に外すように引き抜きます。翌年の５月頃，蕾が出てきたら葉の先端より伸び出した頃手で折り取ります。

６．追肥

１回目は１１月上旬，２回目は２月上旬に，マルチの上から追肥用化成肥料を１平方㍍当たり２０㌘散布します。

７．収穫

５月頃，葉が６，７割枯れてきたら晴天を選び収穫します。収穫後は根を切って１０株ほどを束ねて風通しのよい軒下などにつるして貯蔵します。



（鹿児島市都市農業センター）

令和３年１０月１４日（木）／南日本新聞